

平成29年度第8回文系チャレンジ講座を実施しました

第8回文系チャレンジ講座が、平成30年2月7日、本学経済学部で金珍奎先生により、「証券の種類と株式市場の役割」と題して行われました。

遠隔配信された安心院、臼杵、大分西、国東、大分鶴崎、別府翔青、中津南、高田、大分雄城台、日田、竹田の11校179名の高校生が受講しました。

「証券」や「株式」など、生徒にとっては今まであまり知る機会がなく、「難しそう」、「複雑そう」という理由であまり知ろうともしていなかった内容の話でしたが、金珍奎先生が身近な具体例を提示して、その歴史も含めてわかりやすく説明してくださったおかげで、その大まかな仕組みを知ることができ、「証券」や「株式」が、実は自分たちの周りに溢れているということに気づくことができました。

例えば、「証券」とは、何かの証拠や証明になるもので、お金(日本銀行券)、J Rの定期券、図書カード、預金通帳なども証券であり、普段の生活で実際に目にしたり、使用したりしています。また、「株式」も「証券」の1つです。「株式」は、1602年にオランダの東インド株式会社が資金集めの手段として発明したものであり、株式の持ち主を「株主」といいます。「株式会社」は株主の共有財産で、必ずしも社長のものでは

はなく、会社の儲けは株主に配分されます。「株式市場」は資金が必要な企業と資金を出す余裕がある株主が会える場を提供し、会社がうまくいけば雇用が生まれ、失業者が減り、国の経済成長につながります。また、身近な企業であるJ R九州や、大分銀行、LINEなども株式会社です。

このように、「証券」や「株式」は生活をあらゆる面で支えている重要な存在であることが、よく分かりました。今回の講義により、「株価」はなぜ変動するのか？子どもの頃からもっと経済について興味関心を持つような教育をすれば、日本経済はよくなるのか？「仮想通貨」のしくみはどうなっているのか？などの新たな疑問が生まれ、高校の現代社会の授業や、大学での講義でもっと学んでみたいと、さらに関心を高めることができた様子でした。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」(98%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ)、「教員は真剣に取り組んでいた」(99%)、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」(99%)という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」(97%)、「映像はよく見えた」(94%)という結果が出ました。受講生からは「今まで何気なく使用していたお金や定期券が証券に分類されると知り、面白いと思った」「難しいと思っていた株式だったが、身近に感じることができるようになった」「証券や債券について知らないことが多くあると分かり、もっと知りたいという意欲がわいた」「初めて株式会社の歴史のことや株式会社は株主のものだということを聞いて驚いた」といった感想が寄せられました。

